

令和 4 年 5 月 26 日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K03310

研究課題名（和文）修正感情体験を促進する介入の明確化と訓練法の開発

研究課題名（英文）Developing interventions that facilitate corrective emotional experience

研究代表者

岩壁 茂（Iwakabe, Shigeru）

お茶の水女子大学・基幹研究院・教授

研究者番号：10326522

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、修正感情体験を効果的に促進する介入法の同定、その介入の臨床訓練の開発と効果の検討、を行った。修正感情体験が効果的になると考えられる感情的傷つきに悩まされる成人29人に対して16回からなるエモーションフォーカストセラピーを実施した。加速化体験力動療法に関するデータも収集された。合計97人の成人クライアントからのデータが収集された。介入前後の比較においてCohen's $d > .80$ の効果がほとんどのアウトカム尺度において得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

修正感情体験について実証的な視点から検討した。また、修正感情体験の促進を中心に据えた心理療法の効果を示すことが出来た。クライアントの主観的体験という視点から修正感情体験のプロセスについて理解した。

研究成果の概要（英文）：The research project aimed at developing an emotion-focused method of facilitating corrective emotional experience. The process and outcome of emotion-focused therapy and accelerated experiential dynamic psychotherapy were examined in relation to the occurrence of corrective emotional experience. Both therapies achieved a large effect size at termination. Corrective emotional experience played a central role in the change process.

研究分野：臨床心理学

キーワード：心理療法 効果研究 プロセス研究 感情 修正感情体験 治療関係 質的研究 感情的傷つき

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

心理療法・カウンセリング効果のメタ分析は、治療関係とかかわる変数がもっとも重要な治療的要因であることを一貫して示してきた (Norcrss & Lambert, 2018)。共感や治療同盟などの重要性が確立される中で、研究者の関心は、治療関係がどのように変容を促進するのか、というその変容メカニズムに集まっている。その中で注目されるのが Alexander と French(1946)によって着想された修正感情体験であり、クライアントが、過去にうまく対処できなかったために古傷となった未解決の感情的葛藤を、過去の状況よりも好ましい治療関係の中で追体験し、解決することを指す。修正感情体験は、異なるアプローチの心理療法に共通する変容メカニズムと考えられ、これまで多くの臨床家が、強い関心を向けてきた(Castonguay & Hill, 2012)。しかし、その実証的研究はあまり進んでいない。

2. 研究の目的

本研究では、修正感情体験を効果的に促進する介入法の同定、その介入の臨床訓練の開発と効果の検討、を行った。感情に焦点を当てた心理療法の効果とプロセスに関する量的データおよび質的データを包括的に検討することによって修正感情体験の実証的理解を進めることをより大きな目標とした。

3. 研究の方法

エモーション・フォーカスト・セラピー (Emotion-Focused Therapy: EFT: Greenberg, 2010)、加速度体験の力動療法 (Accelerated Experiential Dynamic Psychotherapy: AEDP: Fosha, 2000)という修正感情体験を重視するアプローチに基づいた心理療法を実施し、その効果とプロセスについて感情と治療関係に関するデータから分析を行った。

具体的には、16回程度の短期心理療法を感情的傷つきや感情的葛藤を抱えた成人に対して実施した。その効果は、介入前後の変化、数回ごとの変化の指標から検討した。介入継続期間は、定期的にスーパービジョンを行うことによって、介入のプロセスをモニターした。

4. 研究成果

修正感情体験が効果的になると考えられる感情的傷つきに悩まされる成人 29 人に対して 16 回からなるエモーションフォーカストセラピーを実施した。クライアントの変化を測定する 10 の

アウトカム尺度のうち9において Cohen's $d > .80$ の効果量が得られた。クライアントの半数が臨床的に有意な変化 (Clinically Significant change: Jacobson et al., 1999)を達成した。

修正感情体験については、個人差はあったものの多くのクライアントにおいて複数の感情体験が得られた。具体的事例を取り上げた系統的事例研究に基づく研究は、*Psychotherapy* 誌に掲載された (Nakamura et al., 2022)。クライアントに対するインタビューの分析から、修正感情体験に寄与する治療関係、面接プロセスの特質について明らかにされた。その成果の一部をまとめた論文は投稿され、現在審査中である (野田 et al., 2022)。

また、加速化体験力動療法に関するデータも収集された。合計 97 人の成人クライアントからのデータが収集された。介入前後の比較において Cohen's $d > .80$ の効果量がほとんどのアウトカム尺度において得られた。この論文は、*Psychotherapy* 誌に掲載された (Iwakabe et al., 2020)。また、終結 12 ヶ月後のフォローアップ時においても、介入効果が維持されていた。この論文は、2022 年 4 月に *Psychotherapy* 誌に採択され、現在掲載準備中である (Iwakabe et al., 2022)。また、初期面接に限定した修正感情体験のプロセスについて検討を行った。その成果は、*Journal of Psychotherapy Integration* に掲載された (Iwakabe et al., 2021)。もう 2 本は、投稿され、審査中である (DiCorcia et al., 2022; Notsu et al., 2022)。

コロナ禍もあり、分析は現在も継続中である。上記のデータをもとにした論文およびポスターは、2022 年 7 月に開催される国際大会において発表予定である (ポスター 3 本、論文 2 本)。

文献

- Alexander, F., & French, T. M. (1946). *Psychoanalytic therapy: Principles and application*. New York: Ronald Press.
- Castonguay, L. G., & Hill, C. E. (Eds.). *Transformation in psychotherapy: Corrective experiences across cognitive behavioral, humanistic, and psychodynamic approaches*. Washington, DC: American Psychological Association.
- Fosha, D. (2000). *Transforming power of affect: A model of accelerated change*. New York: Basic Books.
- Greenberg, L. S. (2010). *Emotion-focused therapy: Coaching clients to work through their feelings*. Washington, DC: American Psychological Association.
- Norcross, J. C., & Lambert, M. J. (2018). Psychotherapy relationships that work
III. *Psychotherapy*, 55(4), 303–315. <https://doi.org/10.1037/pst0000193>

発表論文

- Iwakabe, S., Edlin, J., Fosha, D., Gretton, H., Joseph, A. J., Nunnink, S. E., Nakamura, K., & Thoma, N. C. (2020). The effectiveness of accelerated experiential dynamic psychotherapy (AEDP) in private practice settings: A transdiagnostic study conducted within the context of a practice-research network. *Psychotherapy*, 57(4), 548–561. <https://doi.org/10.1037/pst0000344>

Iwakabe, S., Edlin, J., Fosha, D., Gretton, H., Joseph, A. J., Thoma, N., Nakamura, K., & Thoma, N. C. (2022). The long-term effectiveness of accelerated experiential dynamic psychotherapy (AEDP) 6-month and 12-month followup. *Psychotherapy*. 掲載準備中

Iwakabe, S., Edlin, J., & Thoma, N. (2021). A phenomenological case study of accelerated experiential dynamic psychotherapy: The experience of change in the initial session from a client perspective. *Journal of Psychotherapy Integration*. Advance online publication. <https://doi.org/10.1037/int0000261>

Nakamura, K., Iwakabe, S., & Heim, N. (2022). Connecting in-session corrective emotional experiences with postsession therapeutic changes: A systematic case study. *Psychotherapy*, 59(1), 63–73. <https://doi.org/10.1037/pst0000369>

投稿済み・審査中

DiCorcia, M., Iwakabe, S., & Thoma, N. (2022). *Transformational process scale: An initial application to the first psychotherapy session*. A manuscript submitted for publication.

野田亜由美・岩壁茂・中村香理 (2022). 過去の感情的傷つきに対するエモーション・フォーカスト・セラピーの効果 . 投稿済み .

Notsu, H., Iwakabe, S., & Thoma, C. N. (2022). *Enhancing Working Alliance Through Positive Emotional Experience: A Cross-Lag Analysis*. [Manuscript submitted for publication].

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 6件／うち国際共著 3件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Iwakabe, Shigeru., Edlin, Jennifer., Fosha, Diana., Gretton, Heather., Joseph, Andrew., J. Nunnink, Sarah E., Nakamura, Kaori., & Thoma, Nathan C.	4. 巻 57(4),
2. 論文標題 The effectiveness of accelerated experiential dynamic psychotherapy (AEDP) in private practice settings: A transdiagnostic study conducted within the context of a practice-research network.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychotherapy,	6. 最初と最後の頁 548-561
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1037/pst0000344	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Nakamura, Kaori., Iwakabe, Shigeru., & Heim, Niko.	4. 巻 3
2. 論文標題 Connecting in-session corrective emotional experiences with post-session therapeutic changes: A systematic case study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychotherapy,	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Goto, Ayumi., Iwakabe, Shigeru., & Heim, Niko.	4. 巻 3
2. 論文標題 Therapeutic courage in novice therapists in Japan: A qualitative study.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Psychotherapy Integration	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 中村香理・岩壁茂	4. 巻 20(6),
2. 論文標題 心理療法におけるクライアントの感情変容を捉える：感情変容尺度クライアント版の開発の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 765-770
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwakabe, Shigeru.	4. 巻 77
2. 論文標題 Working with social withdrawal, or hikikomori, in Japan: From shame to pride	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Psychology	6. 最初と最後の頁 1205-1218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jclp.23151	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwakabe, S	4. 巻 34
2. 論文標題 Working through shame with an intercultural couple in Japan: Transforming negative emotional interactions and expanding positive emotional resources.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Psychology	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jclp.22864	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩壁茂	4. 巻 111
2. 論文標題 スーパービジョンにおける恥	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 321-323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 Nakamura, K., Iwakabe, S., Yamazaki, W., Okubo, C., Kimura, Y., Arakaki, Y., ...Kawasaki, N.
2. 発表標題 Verifying a task model of corrective emotional experience
3. 学会等名 Society for Psychotherapy Research (国際学会)
4. 発表年 2020年

1 . 発表者名 Nakamura, K., & Iwakabe, S.
2 . 発表標題 Validation of the Corrective Emotional Experience Scale (CEES).
3 . 学会等名 Society for the Exploration of Psychotherapy Integration (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Yaegashi, M., Yabuki, M., Nakamura, K., Iwakabe, S., Fosha, D., & Edlin, J.
2 . 発表標題 Patient's experiences in the early phase of Accelerated Experiential Dynamic Psychotherapy: Healing from the get-go.
3 . 学会等名 Society for the Exploration of Psychotherapy Integration (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Kizuki, S., Yamazaki, W., Nakamura, K., & Iwakabe, S.
2 . 発表標題 Identifying flourishing events in Emotion-Focused Therapy.
3 . 学会等名 Society for the Exploration of Psychotherapy Integration (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Yamaguchi, C., Kimura, Y., Noda, A., Yamazaki, W., Nakamura, K., & Iwakabe, S.
2 . 発表標題 Clients' subjective experiences in Emotion-Focused Therapy.
3 . 学会等名 Society for the Exploration of Psychotherapy Integration (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Nakamura, K., Iwakabe, S., Yamazaki, W., Okubo, C., Kimura, Y., & Arakaki, Y.
2 . 発表標題 A process of corrective emotional experience: A theory-building case study.
3 . 学会等名 the international conference of International Society for Emotion Focused Therapy (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Nakamura, K., Iwakabe, S., Noda, A., Kizuki, S., Fukushima, T., Yamazaki, W., Kimura, Y., Arakaki, Y., & Okubo, C.
2 . 発表標題 An intensive analysis of the process of corrective emotional experience: Verifying task components.
3 . 学会等名 the Society for Psychotherapy Research (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Nakamura, K., & Iwakabe, S.
2 . 発表標題 From in-session corrective emotional experiences to outside-session changes: A theory-building case study using in-session process data and e-mail exchanges.
3 . 学会等名 Society for the Exploration of Psychotherapy Integration (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Tomimasu, R., Iwakabe, S., Nakamura, K., Yamazaki, W., Noda, A., Kimura, Y., Fosha, D., & Edlin, J.
2 . 発表標題 Tracking emotional change process in psychotherapy: The initial validation of The Four State Scale for Emotional Episodes (4-SSEE).
3 . 学会等名 Society for the Exploration of Psychotherapy Integration (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 Kono, A., Nakamura, K., Iwakabe, S., Fosha, D., & Edlin, J.
2. 発表標題 Client experiences in the early phase of Accelerated Experiential Dynamic Psychotherapy.
3. 学会等名 Society for the Exploration of Psychotherapy Integration (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Iwakabe, S.
2. 発表標題 When things go wrong: knowing why therapeutic failures occur and learning what to do next time.
3. 学会等名 The Society for Psychotherapy Research (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Iwakabe, S., & Goto, A.
2. 発表標題 Authentic humility or cultural imperative: A qualitative study on the experience of humility in Japanese psychotherapists.
3. 学会等名 The Society for Psychotherapy Research (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------